



【韓国】 総合指数は週間で0.4%高と反発、半島情勢懸念で今週も上値重いか

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で0.4%高と反発した。週明け15日は新型コロナウイルスの感染「第2波」への警戒感が広がる中、中国の経済指標の一部が市場予想を下回ったことが嫌気され、前週末比4.8%安と大幅に3日続落。翌16日はFRBによる社債購入計画を受けて投資家のリスク選好姿勢が強まり、5.3%高と大幅反発したものの、北朝鮮が16日に開城(ケソン)にある南北共同連絡事務所を爆破したと伝わり、17日以降は地政学的リスクが意識されて上値は重かった。今週も引き続き上値の重い展開が続くか。韓国でもソウル周辺で新型コロナの感染者が再び増加に転じている。積極的な買い材料が見当たらない中、北朝鮮は今後も軍事的な挑発を続けるとみられ、両国関係の緊迫化への懸念が相場の重しとなりそうだ。

▼指数チャート

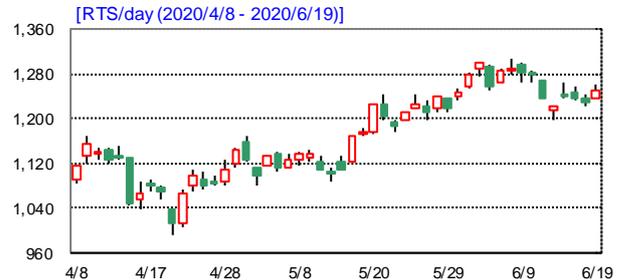


【ロシア】 RTS 指数は週間で0.9%高と反発、今週も原油相場の動向が影響か

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で0.9%高と反発。前週の大幅安の反動や原油相場の上昇、政策金利の引き下げが支援となったが、新型コロナ感染拡大第2波への警戒感が重しとなり、反発は限定的だった。前週に4週ぶりに反落した指数は週明け15日に前営業日比1.3%安と4日続落したものの、16日は欧米株高や原油相場の上昇を好感し1.7%高と反発。17-18日に続落した後、19日はロシア中央銀行が政策金利を5.5%から4.5%に引き下げたことや原油相場の上昇が好感されて指数は1.5%高と3日ぶりに反発し、週間でもプラス圏に浮上した。個別では鉄鋼のノボリペツク製鉄所、エネルギーのルクオイルが2%超上昇した一方、資源のGMKノリルスクニッケルが2%超下落した。今週も原油相場や欧米株価をにらんだ展開か。

▼指数チャート



【ベトナム】 ベトナム指数は週間で0.6%高と反発、今週も欧米株価に左右される

か

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で0.6%高と反発。新型コロナ感染拡大第2波の警戒感から週初に急落したものの、米FRBの積極的な金融政策が好感される中で不動産株の上昇が追い風となり、盛り返した。前週に6週ぶりに反落した指数は週明け15日もコロナ感染拡大第2波の警戒感で前営業日比3.6%安と大幅続落。ただ、16日はFRBが個別企業の社債購入などの支援策を発表したことが好感され、指数は2.8%高と4日ぶりに反発。19日も不動産株などが買われ指数は1.6%高となり、週間でもプラス圏で終えた。個別ではサイゴンビール・アルコール飲料、テクコムバンクなどが大きく下落した半面、不動産のビンググループが6.0%高、鉄鋼のホア・ファット・グループが3.2%高と指数を押し上げた。今週も欧米株価に左右される展開か。

▼指数チャート



【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 1.3%高、米 FRB の社債購入制度を好感

ジャカルタ総合指数は週間で 1.3%高と反発。外部要因が指数を支えた。週初の 15 日は 5 月の輸出入額が記録的な落ち込みとなった影響で売られ、指数は終値で前営業日比 1.3%安と反落。一方、16 日は米 FRB が社債購入制度を発表した効果で前日の NY ダウが上昇した流れを引き継ぎ、前日比 3.5%高と急反発した。17 日は小幅に続伸したが、18 日は中央銀行が政策金利を市場予想通り 0.25%引き下げ、4.25%に設定したものの買い材料視されず、指数は前日比 1.3%安と 3 日ぶりに反落。ただ、19 日には小幅に反発して引けた。今週は 26 日にオンラインで開催される ASEAN 首脳会議の内容が意識されそうだ。

▼指数チャート

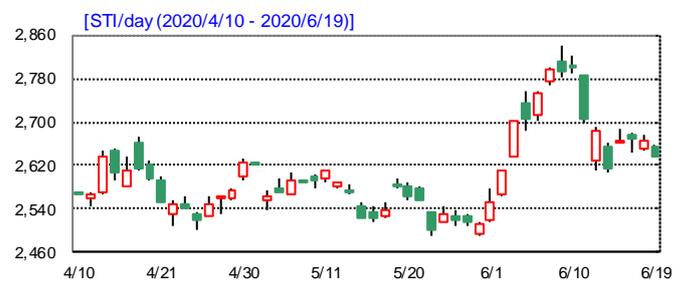


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 1.9%安、都市封鎖の再導入懸念が重し

ストレーツタイムズ指数は週間で 1.9%安と続落。新型コロナウイルスの感染第 2 波に対する脅威が重しとなった。週初の 15 日は、米中両国での感染者増加を受け、都市封鎖の再導入に対する懸念が広がった影響で、指数は前営業日比 2.6%安と 3 日続落。一方、16 日は政府が前日に経済活動の制限を 19 日に大幅緩和すると発表したことが好感され、前日比 2.0%高と反発した。その後は 18 日まで小幅なレンジでの値動きが続いたが、19 日は世界全体での感染拡大が続いている影響で売り優勢の展開となり、終値で前日比 1.2%安と続落して引けた。今週は 23 日に 5 月の CPI、26 日に鉱工業生産が発表される予定。

▼指数チャート

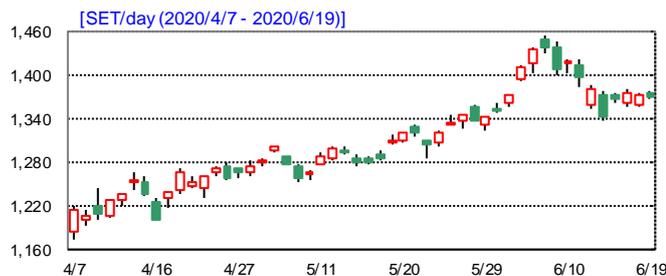


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 0.8%安、今週は 24 日に中央銀行が金融政策決定会合を開催

SET 指数は週間で 0.8%安と続落。外部要因による週初の下落が痛手で伸び悩んだ。15 日は夜間外出禁止令が 2 カ月半ぶりに解除され、国内の経済活動再開が進んだものの、中国の 5 月の固定資産投資と鉱工業生産、小売売上高が市場予想から下振れた影響などで、指数は前営業日比 2.9%安と 3 日続落。一方、16 日に前日比 1.9%高と反発すると、17 日は前日の NY ダウが大幅に上昇した流れを引き継ぎ続伸した。ただ、週後半は買い材料に乏しく、19 日まで続落して取引を終えている。今週は 24 日に 5 月の貿易統計（通関ベース）と鉱工業生産が発表されるほか、中央銀行が定例の金融政策決定会合を開催する予定。

▼指数チャート



【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 2.5%安、中国での感染第 2 波懸念を嫌気

クアラルンプール総合指数は週間で 2.5%安と続落。週初の下落が響いた。15 日は中国で新型コロナウイルスの感染第 2 波に対する警戒感が強まったことに加え、NY ダウ先物の急落も嫌気され、指数は終値で前営業日比 3.1%安と節目の 1500 ポイントを小幅に割り込んだ。ただ、16 日に寄り付きでこの水準を回復し、終値で 4 日ぶりに反発すると、17 日は一部のリゾート施設の営業再開を翌日に控えたゲンティン系の 2 社が指数上昇をけん引。18 日は北京での感染者増加が売り材料となり反落したが、19 日は米中貿易協議の進展に対する期待感から反発して引けている。今週は 24 日に 5 月の CPI が発表される予定。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するにしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。